

【様式】

平成29年度 学校マネジメントシート

学校名（三重県立伊勢まなび高等学校）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒が安心して楽しく学べる学校</li> <li>○ 生徒が学びたい内容を自分のペースに合わせて学べる学校</li> <li>○ 生徒が社会に出て自立できる力を身につける学校</li> </ul>
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒が生き生きと楽しく学校生活を送ることができている。</li> <li>○ 生徒が自ら将来や進路を考え、社会に出て自立できる力や社会生活の基盤となる確かな学力を身につけている。</li> </ul>
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業規律が確立し、基礎学力向上のための授業改善が常に図られている。</li> <li>○ 生徒一人ひとりのニーズに応じた学習内容とそのための支援体制が整えられている。</li> <li>○ キャリア教育が充実し、生徒自身の自己成長を支援する体制が整えられている。</li> </ul>

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>〈生徒〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友人関係の構築、自分の居場所の確保</li> <li>・ 分かりやすい授業、資格取得</li> <li>・ 卒業及び希望進路の実現</li> </ul> <p>〈保護者〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生活規律の確立及び学校生活の充実</li> <li>・ 希望進路の実現</li> <li>・ 家庭との密接な連携</li> </ul> <p>〈中学校〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習意欲がありながら不登校等様々な課題を持つ生徒の受け入れ</li> </ul> <p>〈地域〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒の規範意識の向上</li> <li>・ 生涯教育の場の提供</li> </ul>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p>〈保護者〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生活規律の確立及び学校生活の充実</li> </ul> <p>〈中学校〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒の居場所の確保及び生徒一人ひとりの特質を踏まえた対応</li> </ul> <p>〈カウンセラー・特別支援教育関係者・福祉関係施設・警察・行政等〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒の居場所の確保及び生徒一人ひとりの特質を踏まえた対応</li> </ul> <p>〈地域〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒の規範意識の向上</li> <li>・ 生涯教育の場の提供</li> </ul>	<p>〈保護者〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家庭での生活規律の確立や日常生活についての情報提供</li> </ul> <p>〈中学校〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校生活等の情報提供及び生徒への連携した関わり</li> </ul> <p>〈カウンセラー・特別支援教育関係者・福祉関係施設・警察・行政等〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門分野における生徒への直接支援及び教職員の活動支援</li> </ul> <p>〈地域〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外部（地域）教育力として専門知識技能の提供及び生徒の見守り</li> </ul>
(3) 前年度の学校関係者評価等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「わかる授業」やアクティブラーニングを取り入れ、生徒の実態に応じた授業の工夫により、生徒の授業内容の理解度や学習満足度が高まっていることは評価できる。</li> <li>・ 「質問や意見が言いやすい」と感じている生徒の割合が増加していることは、全教職員の共通理解の下、「コミュニケーション学習」を取り入れる等の積極的な取り組みの成果といえる。</li> <li>・ 学力の定着・向上には、学習意欲の向上が不可欠なことから、継続的に取り組むことが必要。私語への対応では、さらなる徹底が望まれる。</li> <li>・ 進路や就労で早期の応募への取り組みのため生徒の意識改革など積極的により一層の早めの働きかけが必要である。</li> <li>・ 「自分にもできた」という成功体験を積み重ねることで、生徒の自己肯定感が高まるので、生徒達が小さな成功体験が積み重ねられるような取り組みを日頃から取り入れていくことが大切である。</li> </ul>	

(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業規律の確保について全教職員で共通理解を図るとともに、教務部・生徒指導部・保健室・図書館等の取組により怠学に対する成果は上がっているが、さらに学習意欲向上のための取組が必要である。</li> <li>様々な理由からコミュニケーション能力や基本的な生活規律に課題を持つ生徒が毎年多く入学している。</li> </ul>
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>全教職員により学校システムとして単位制・三部制・多様な単位認定等を維持することを確認しているが、真に生徒のニーズに応えるものとなるような取組が必要である。</li> </ul>

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ アクティブ・ラーニングを取り入れるなどして、基礎学力の定着を目指す。</li> <li>○ 生徒自身が、コミュニケーション能力を身につけるとともに、自己肯定感の育成を目指す。</li> <li>○ キャリア教育のさらなる充実に取り組む。</li> </ul>
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 特別支援教育体制づくりをさらに進めるとともに、取組の充実を図る。</li> <li>○ 変形労働時間制等を活用し、総勤務時間の縮減を図り、働きやすい環境の整備に努める。</li> </ul>

### 4 本年度の行動計画と評価

#### (1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業規律の確立を図る。</li> <li>基礎学力の向上を図る。</li> <li>授業の充実と改善を図る。</li> <li>授業でのICT等の活用を通じ学習意欲の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業時間毎の巡回指導により、怠け学は前年度より3割減少。</li> <li>授業規律は改善されてきている。</li> <li>「わかりやすい授業」や「興味関心を引き出す授業」に向けた授業改善等により、興味関心80% (+4) 内容理解88% (+1) 満足度84% (+5) となった。(前年比) 授業内容への興味関心を高め、内容の理解を深め、満足度を高める授業への取組みを全職員で進めてきた効果が現れている。</li> <li>「アクティブラーニング」「コミュニケーション能力の向上」を考慮に入れた授業を実施することにより、生徒は自分で発言・発表・行動する機会が増えたと感じている。</li> <li>授業でのタブレット活用13回、プロジェクター活用103回</li> </ul>	

<p>生徒自身の自己成長の支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション能力の向上を目指す。</li> <li>・自己肯定感の育成を図る。</li> <li>・仲間づくりや個々の課題の克服を支援する。</li> <li>・生徒の心理理解に努める。</li> <li>・健康相談の充実を図る。</li> <li>・保健指導や保健管理を充実する。</li> <li>・図書館での生徒の成長を支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者の意見を尊重したり、発言しやすい雰囲気づくりにより、生徒が自信をもって取組めるようになってきている。</li> <li>・積極的な声かけ指導により、8割近くが自ら挨拶できるようになった。</li> <li>・担任、授業担当者等との連携による問題行動への素早い対応と、生徒に対して温かい指導を心掛けたことが、生徒の落ち着きと問題行動の減少に繋がっている。</li> <li>・体育祭の参加率 86%、満足度 88%。文化スポーツ交流会の参加率 84%、満足度 97%。文化祭 1 日目の参加率は 87%、満足度 93.5%。文化祭 2 日目の参加率は 79%、満足度 87.2%と前年より上昇、また行事の企画や運営に、生徒の主体的な取組みが増えてきている。</li> <li>・カウンセラーが積極的に生徒と交流するように努めた効果が相談数に反映している。生徒 85 件→52 件、保護者 18 件→40 件。(昨年度比)。</li> <li>・前年同様、悩み事や困ったことを相談したり話せたりする人がいない生徒が 2 割いる。</li> <li>・図書貸出数が大きく減少した。生徒の嗜好に添う蔵書を増やすなど工夫が必要。</li> </ul>
<p>キャリア教育の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動全体を通して推進する。</li> <li>・就職支援の取組を充実させる。</li> <li>・専門性を生かした職業教育を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内求人 (93 社 127 職種) &lt;前年比+15 社、+18 職種&gt;</li> <li>・9 月就職試験出願者、就職希望者 41 名中 4 名 (9.8%) &lt;前年比-26.2%&gt;</li> <li>・実習を通じて挨拶、服装、片づけ、掃除については習慣化し、自主的にできるようになった。また、実習時における生徒の安全意識が高まった。</li> </ul>

### 改善課題

- ・「わかりやすい授業」や「興味・関心を引き出す授業」をするため、ICT等をより一層積極的に授業に活用するなど、生徒の学習意欲の向上への工夫が必要である。
- ・学校行事等において、生徒の自己有用感を高めることができる体験活動を工夫していくことが大切である。
- ・1 回目の就職試験受験応募者が少ないので、生徒に早めの進路決定をするよう生徒の意識改革を図るため、より一層の計画的なキャリア教育、積極的な働きかけを工夫する。進学希望者についても、同様の対応が必要である。

## (2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象生徒への支援を行う。</li> <li>支援システムの構築を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「個別の指導計画」に則った指導を全職員で進めてきている</li> <li>担任を中心とした聞き取りや係全体で聞き取った内容を共有し、管理職や発達障がい支援員等とも相談しながら支援に繋げた。</li> <li>「ケース会議」は、9月に予定していた5件以外に、発達障がい支援員も同席で3件実施した。また、就労に関するケース会議も、県障害者職業センター、ハローワーク等同席のもと1件行うことができた。要望があった件に対する「ケース会議」開催率は100%である。</li> </ul>	
総勤務時間の縮減及び働きやすい環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>月1回の「定時退校日」を設定する。</li> <li>週1回以上の「部活動休養日」を設定する。</li> <li>90%以上の会議を1時間以内に終了する。</li> <li>休暇取得日数の現状を維持する。</li> <li>時間外労働時間の更なる削減を図る。(前年度比 月10%減)</li> <li>夏季休業期間中に学校閉校日を1日設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「定時退校日」、「部活動休養日」、「学校閉校日」の設定や会議時間の短縮を図ることで総勤務時間縮減に努め、概ね目標指数を達成できている。</li> <li>月45時間超労働の該当は少なく、超過勤務時間を振替休暇や勤務時間の割り振り調整等の制度を活用することによって解消できつつある。また一日内の超過勤務時間が出ないようにズレ勤等の利用も推進した。</li> </ul>	

#### 改善課題

- 特別支援教育については、担当者、担任、授業担当、養護教諭、スクールカウンセラー等の間で情報交換や連絡・相談などを行い、学校全体で生徒を支援していく体制があることから、今後も継続した指導を行っている。
- 休暇の取得については、多くの教職員が一定程度以上取得しており、今後もこの水準を維持していきたい。

#### 5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力の定着・向上には学習意欲の向上不可欠なことから、わかりやすい授業の工夫、図書館の利用、ICTを活用するなど継続的に取り組まれることを望む。また、授業規律の確立には引き続き全職員共通の意識と情報共有をして取り組んで欲しい。</li> <li>学校行事等を通じてさまざまな体験活動や人と関わる活動を取り入れ、それらの成功体験を積み重ね、自己有用感を高められる取り組みを今後も期待する。</li> <li>進学や就労活動への早期の取り組みに向け、生徒の意識改革や情報の活用等といった対応の取り組みを進めて欲しい。</li> <li>将来社会人として自立した生活を送れるよう、社会に係わる能力や資質を養う教育が必要。</li> <li>生徒の心身の健康面について、生徒自身が自覚を持って自分の体と心を大切にするような取り組みを期待する。</li> </ul>
---------------------	--

#### 6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力の定着に向けてさらなる工夫を図るとともに、進路選択について早期から取り組むことができるよう、生徒により一層働きかける工夫をする。</li> </ul>
学校運営についての改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成31年度からの通級による指導の実施に向け、次年度は具体的な検討を行う。</li> </ul>

